

全視情協通信 / な い - ぶ	1997/8/20
NAIIV	No. 14
発行 発行責任者 川越 利信	
全国視覚障害者情報提供施設協議会(全視情協) (社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550 大阪市西区江戸堀 1 - 13 - 2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel. 06 - 441 - 0015 Fax. 06 - 441 - 0039 E-mail: HBD00035@niftyserve.or.jp	

————— 主 な 内 容 —————

- 全視情協帯広大会にむけて (川越利信) 1
- 全国点字図書館実態調査 14年を振り返って
(全視情協サービス委員会) 4
- D A I S Y 国際評価総括会議 短報 (河村 宏) 17
- 【施設紹介】石川県視覚障害者情報文化センター 18

全視情協 帯広大会にむけて

会長 川越 利信

1 サービス状況概観

視覚障害者への情報サービスを充実させ、十分に読書が楽しめる環境を整備するためには、サービス委員会の活動を前面に押し出そう、というかけ声は、全視情協内部ではずいぶん早くからあった。

ところが、それぞれの視覚障害者情報提供施設(点字図書館)における製作を中心とする業務体制は、そう容易には変動しない。サービスを中心に業務展開を図りたいと思いつつも、製作にほとんどのエネルギーを費やさざるを得ないというのが、視覚障害者情報提供施設(点字図書館)の現実である。いうまでもなく、点字なり、音声なりの提供すべき情報(資料)を用意(製作)しなければ、サービスのしようもないからである。

こうした現実の中で全視情協は、サービス委員会を常設委員会として位置づけ、サービス充実の方策を模索し続けている。サービス委員会のメンバーは全国の加盟施設から選抜され、構成されている。委員各位は、多忙な職務のかたわら、委員会活動を続けている。

サービス委員会の活動の中心は、視覚障害者情報提供施設（点字図書館）の実態調査で、14年間にわたって継続されている。この全国点字図書館実態調査『日本の点字図書館』は、例えば表記の工夫などの課題は持ちつつも、視覚障害者情報提供施設（点字図書館）の実状を把握するのに重要な役割を果たしてきた。

来る9月25、26日の帯広大会では、視覚障害者への情報提供施設のあり方や役割について討論することになっている。

一方、いよいよ高度情報化社会にのみ込まれていく。社会の情報環境は激変している。この激変していく情報環境に、私たちも対応していかなければならない。高度情報化社会への移行に伴い、全視情協のサービスも新たな展開を迫られている。

これらのことを念頭において、サービス委員会で調査活動を総括していただいた。今後の視覚障害者情報提供施設のあり方を考える際の有効な参考資料である。

2 来るぞ！デジタル録音図書の時代

デジタル録音図書時代の担い手、デイジー（DAISY）システムと再生機（プレクストーク）の国際評価会議が、去る7月、東京で開催された。いよいよデジタル録音図書の時代がやってくる、そう実感させられる会議内容であった。（17ページに河村宏氏による簡単な報告が掲載されている。）

帯広大会では、デジタル録音図書の製作システムや機器に実際に触りながら学習ができるようにするために目下準備中である。

質問や疑問などがありましたら、9月10日頃までに、事務局までご連絡ください。

NAIIV第12号でもお知らせしましたように、全視情協 帯広大会は、JBS日本福祉放送による中継生放送が行われます。大会に直接参加できない方も各施設で大会の様態を知ることができます。

第23回 全国視覚障害者情報提供施設大会 日程

9月24日(水)	
13:00~17:00	運営委員会
9月25日(木)	
10:00~12:00	施設長会議
12:00~13:00	受付
13:00~13:40	開会式(開会の辞、歓迎の辞、オリエンテーション)
13:40~17:00	分科会 テーマ: 視覚障害者情報ネットワーク・システム 第1分科会 点字情報 第2分科会 音声情報
17:00~18:00	休憩・チェックイン
18:00~20:00	夕食・懇親会
20:00~21:30	書誌データ管理システム学習会(自由参加)
9月26日(金)	
7:00~ 8:00	朝食
9:00~10:00	部会、各委員会、各ブロック活動状況、各分科会、 ワークショップ等の報告
10:00~10:10	休憩
10:10~12:00	フォーラム 「視覚障害者情報提供施設の役割・あり方」を考える
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~15:00	フォーラム 再開
15:00~15:20	閉会式(閉会あいさつ、次年度開催地あいさつ)
16:00~18:00	自主参加プログラム 技術入門講座 1 パソコン入門 2 マルチメディア入門
18:00~19:00	夕食
19:00~21:00	技術入門講座 再開

別刷りの資料「障害者の情報保障に関する研究」は、「『障害者に関する総合計画提言』作成事業中間報告会資料」として、日本障害者協議会が作成したものです。情報保障に関する中間報告の部分を抜粋しました。この報告は、高度情報社会における情報保障をさまざまな角度から検討しようというのですが、本会からも川越利信会長(日本ライトハウス盲人情報文化センター館長)、田中徹二副会長(日本点字図書館 館長)が参画しています。高度情報社会において、視覚障害者がバリア・フルとならないために、全視情協としても具体的な提言を行っていきたくて考えています。「視覚障害者情報提供施設」のあり方・役割を考える上での資料としても、ぜひご一読いただきたいと思います。

なお、今回の中間報告では表面化していませんが、最終報告には著作権の問題をクローズアップさせる予定です。

全国点字図書館実態調査14年を振り返って

全視情協サービス委員会

はじめに

点字図書館に関する調査は、15年以前にはこのような全般にわたる実態調査は「点字図書館問題研究会」による報告書『サービス面からみた点字図書館の問題～点字図書館実態調査報告～』（1979・昭和54年）と『製作面からみた点字図書館の問題～点字図書館製作部門実態調査報告～』（1981・昭和56年）があるのみであった。

全国視覚障害者情報提供施設協議会（全視情協）は、1982（昭和57）年に「図書館サービス委員会」を常設委員会として発足させた。翌1983（昭和58）年に〔第1回全国点字図書館実態調査〕を開始、今年で第15回目を数える。以下、14年の実態を総括してみたい。なお、以下の数値等は1995（平成7）年度、回答館86館のそれを使用している。

1. 職員数

施設全体の職員数は約650人、うち視覚障害職員数は約90名（14%）

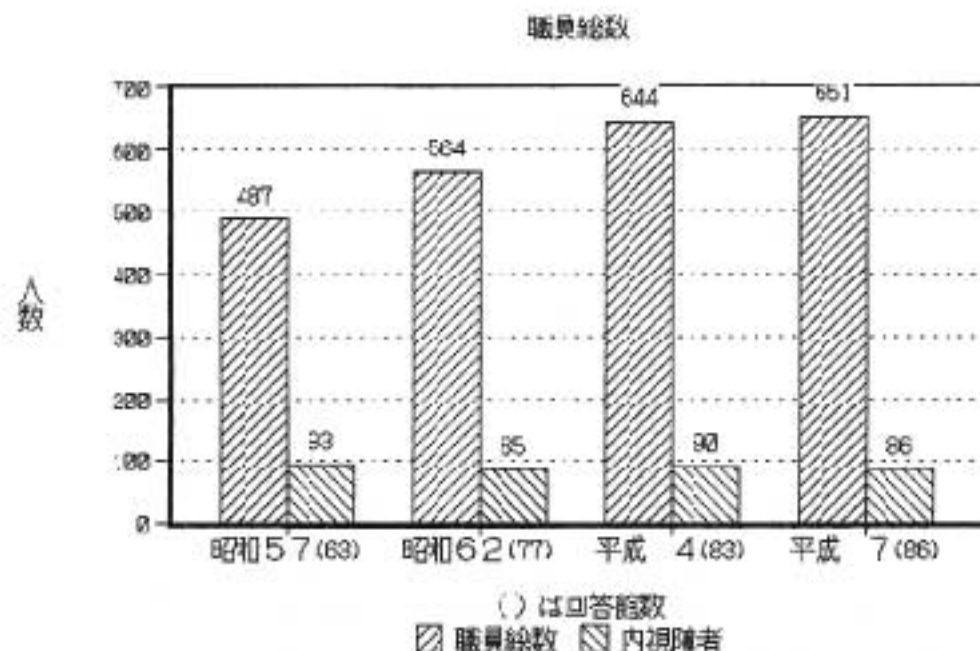
正規専任 430名（全体の66%）、うち視障職員55名（13%）

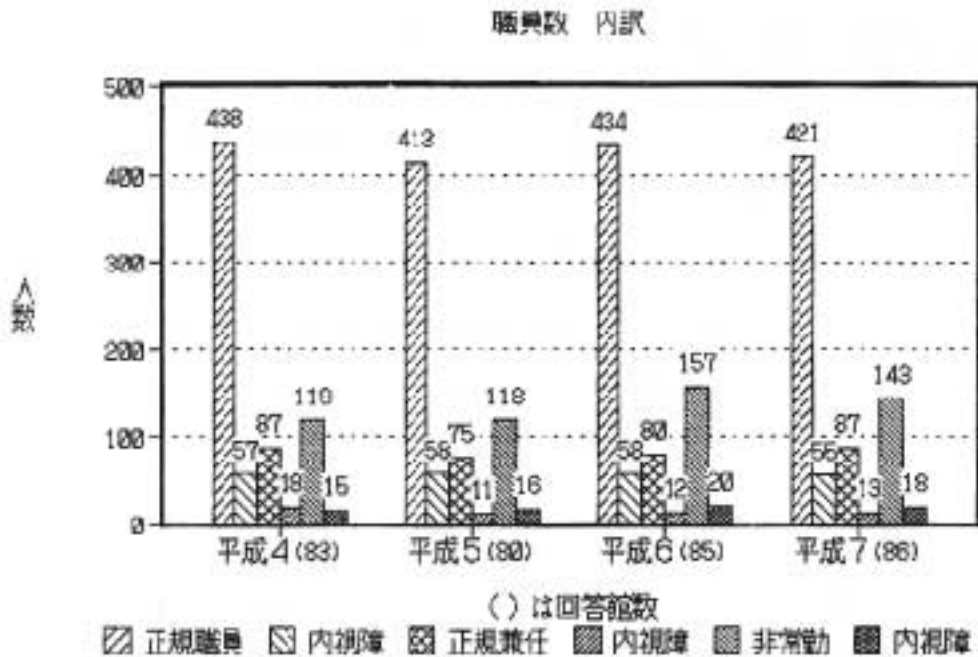
正規兼任 80名（全体の12%）、うち視障職員15名（19%）

非常勤 140名（全体の22%）、うち視障職員20名（14%）

全職員の34%が兼任・非常勤である。（視障職員0名が35館41%）

1館平均	正規専任	5.5名
	職員総数	7.6名
	司書（58館）	1.8名（司書総数106名）





2. 蔵書数

全蔵書数 点字図書 約43万タイトル(自館製作11.5万タイトル 27%)

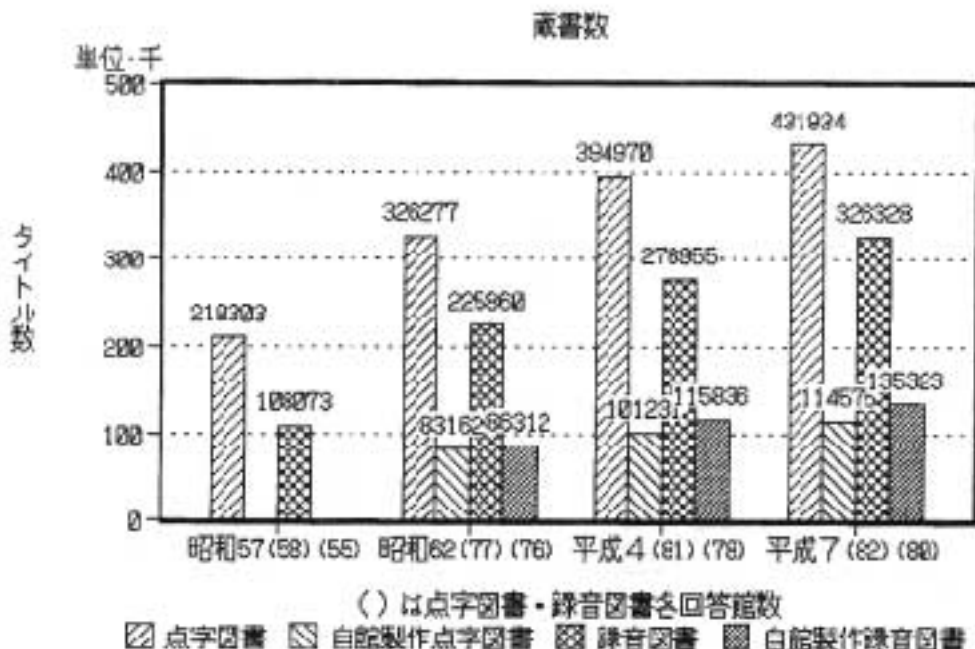
録音図書 約33万タイトル(自館製作13.5万タイトル 41%)

自館製作中の録音図書のおおよその重複製作率は33%とみられる。

故にその種類数は約9万タイトルと予想される。(重複率50%とのサンプル調査もあり)

1館平均 点字図書 約5,300タイトル

録音図書 約4,100タイトル

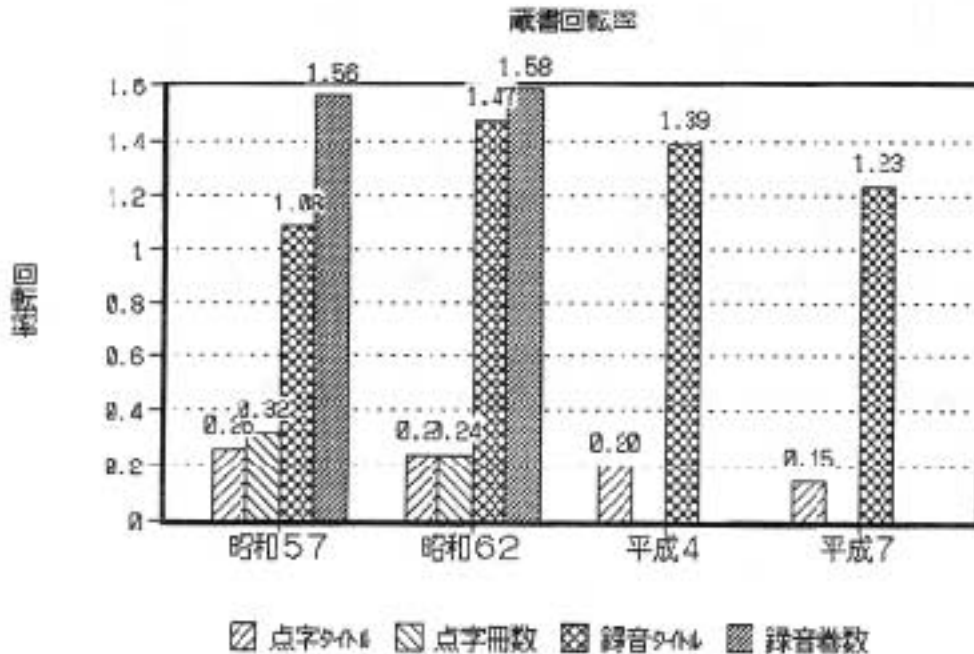


3. 蔵書回転率（図書の間年利用率）

点字図書 0.15（タイトル比 蔵書全体の1.5%しか利用がない）

録音図書 1.23（タイトル比 蔵書全体の1.23%利用がある）

古い図書の紹介・活用が必要（主題別目録・著者別目録、特集）



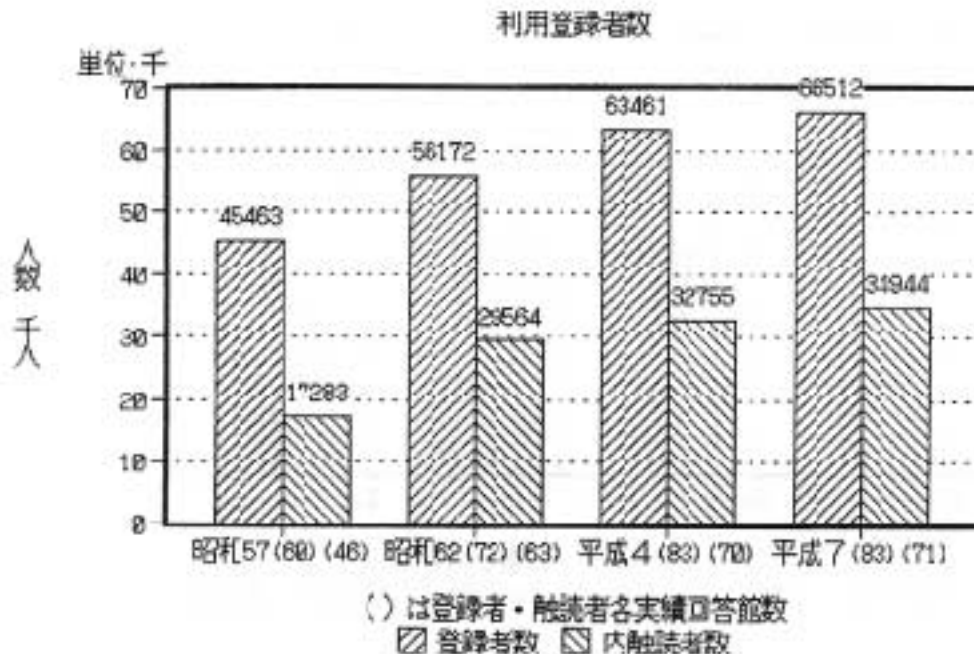
4. 利用登録者数

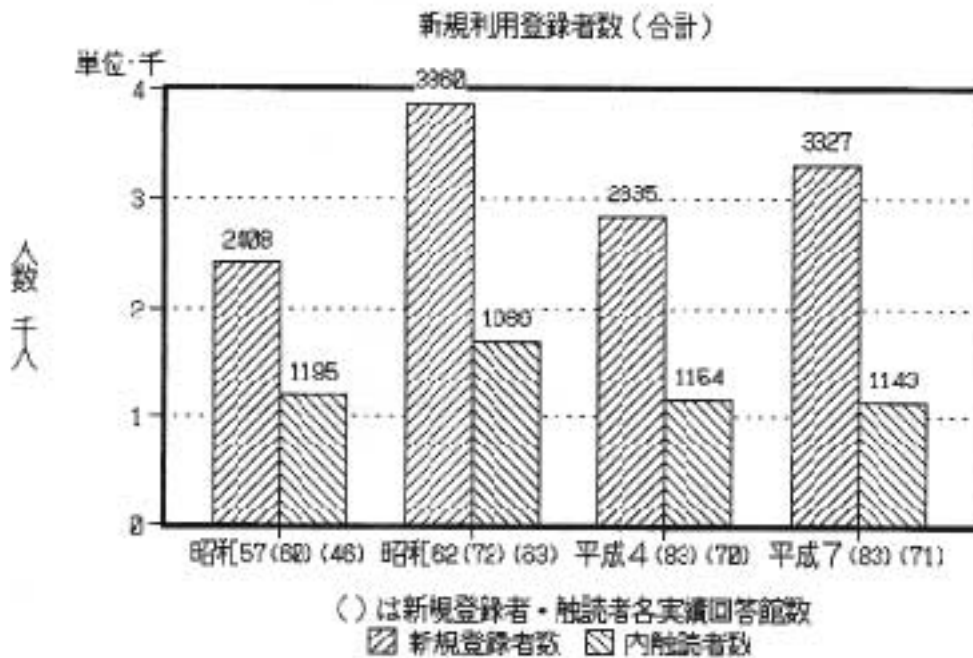
全体で約66,000名、うち点字触読者数 約35,000名（53%）

単年度登録者数 全体で約3,300名、うち点字触読者数 約1,100名（33%）

1館平均 登録者 約800名（うち点字触読者 約490名）

単年度 約40名（うち点字触読者 約16名）





5. 貸出数

点字図書 約 6.5万タイトル(実質貸出密度1.9はタイトル比)

録音図書 約 40万タイトル(実質貸出密度6.0はタイトル比)

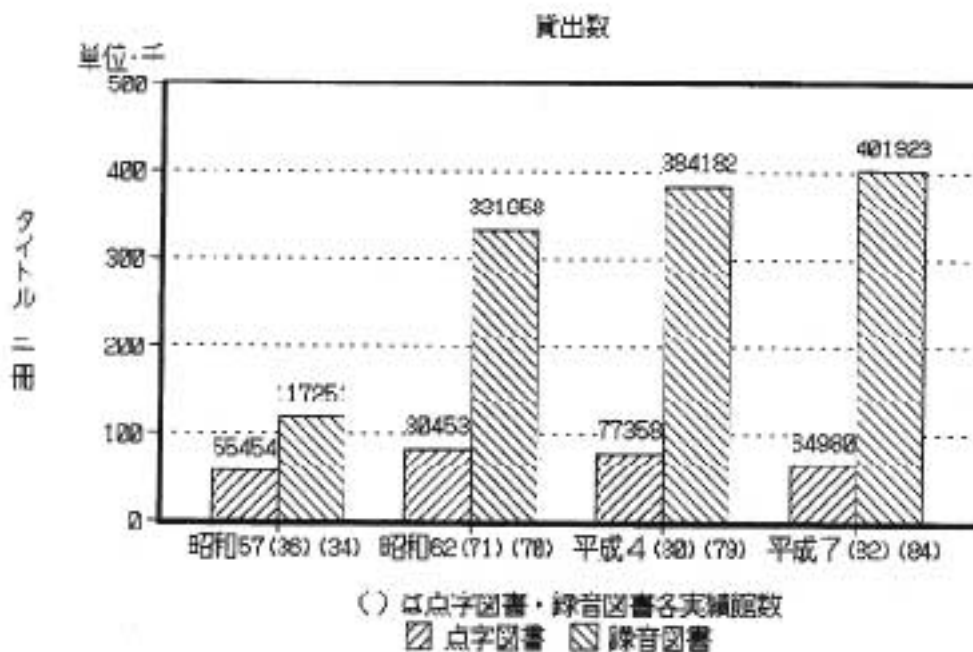
点字図書は減少傾向、点字雑誌は横ばい傾向

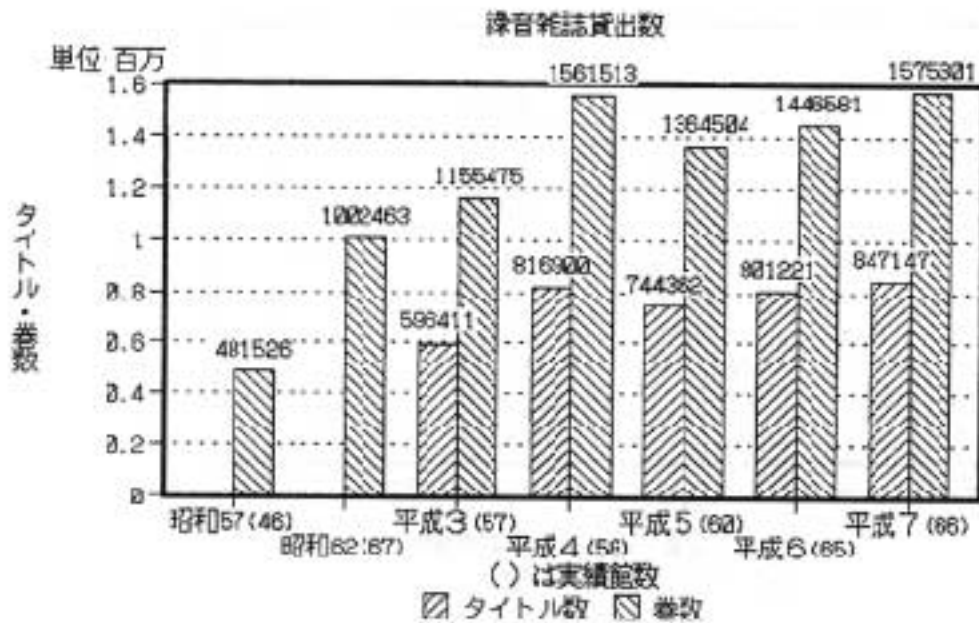
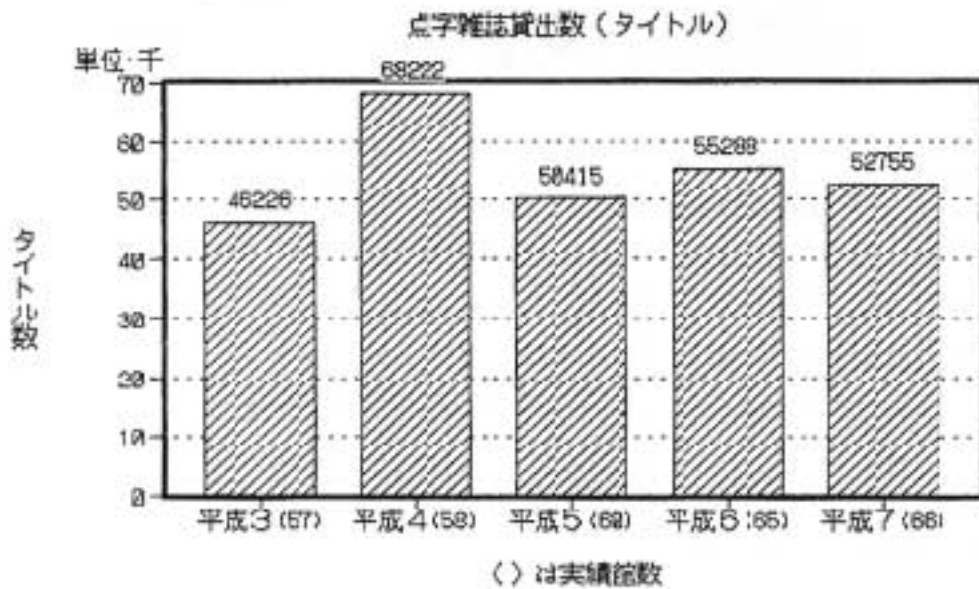
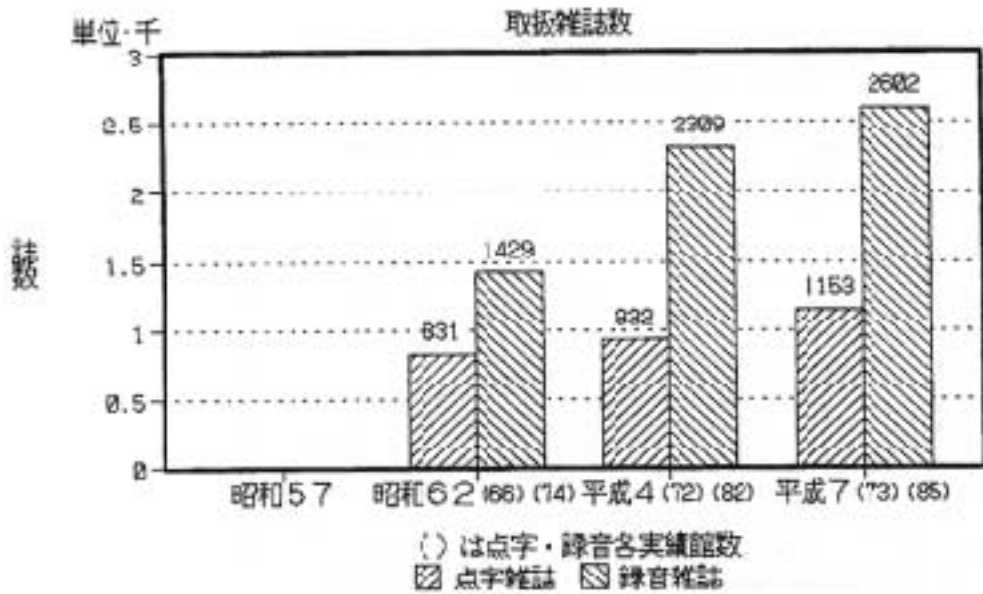
録音図書は増加傾向、録音雑誌も増加傾向にある。

(実質貸出密度とは、一人の読者が1年間に利用した平均図書数)

1館平均 点字図書 約 800タイトル

録音図書 約 4,800タイトル





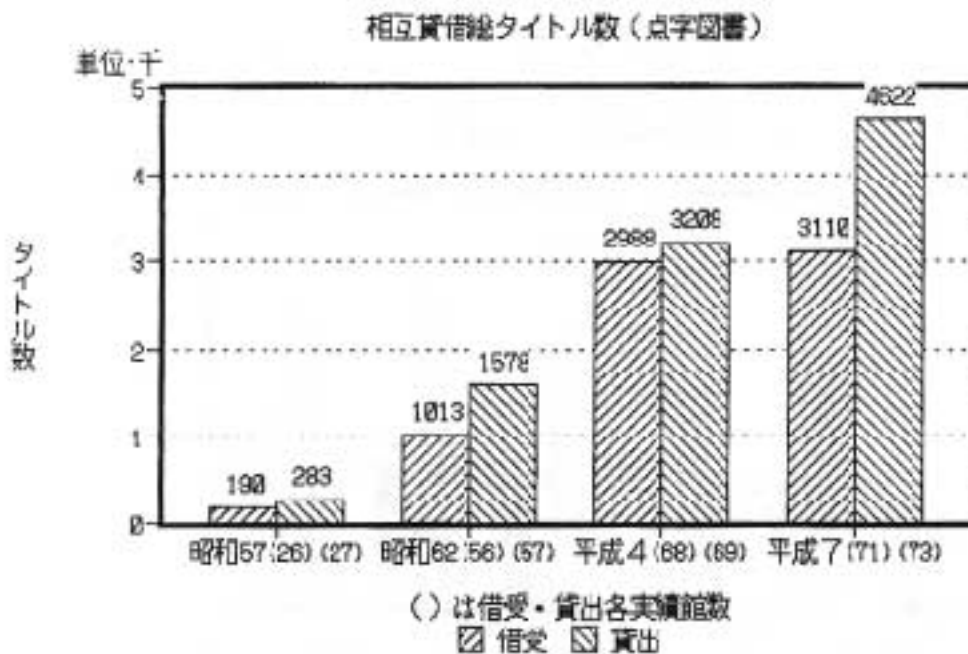
6. 資料の相互貸借

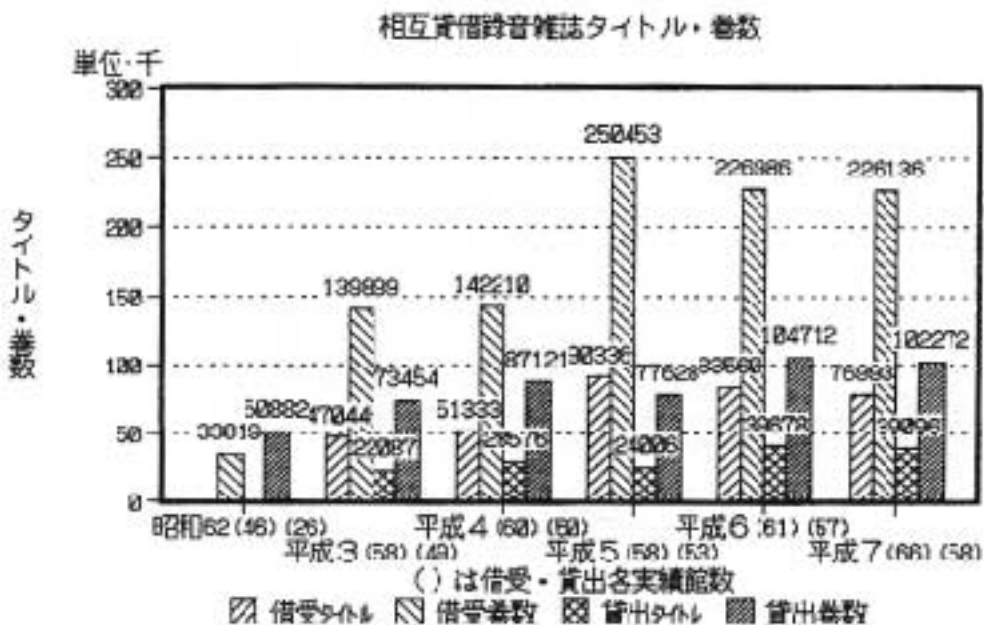
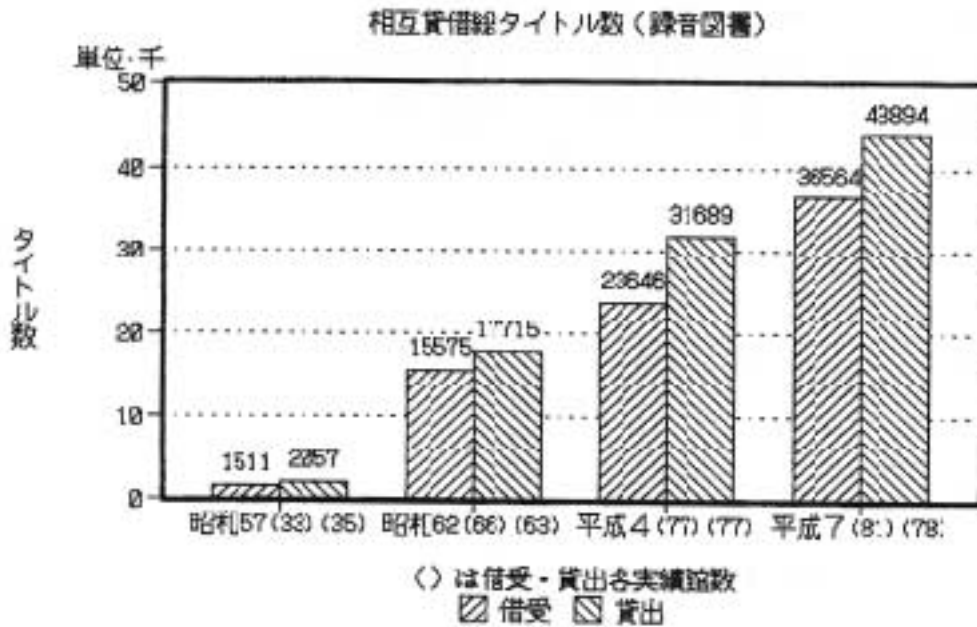
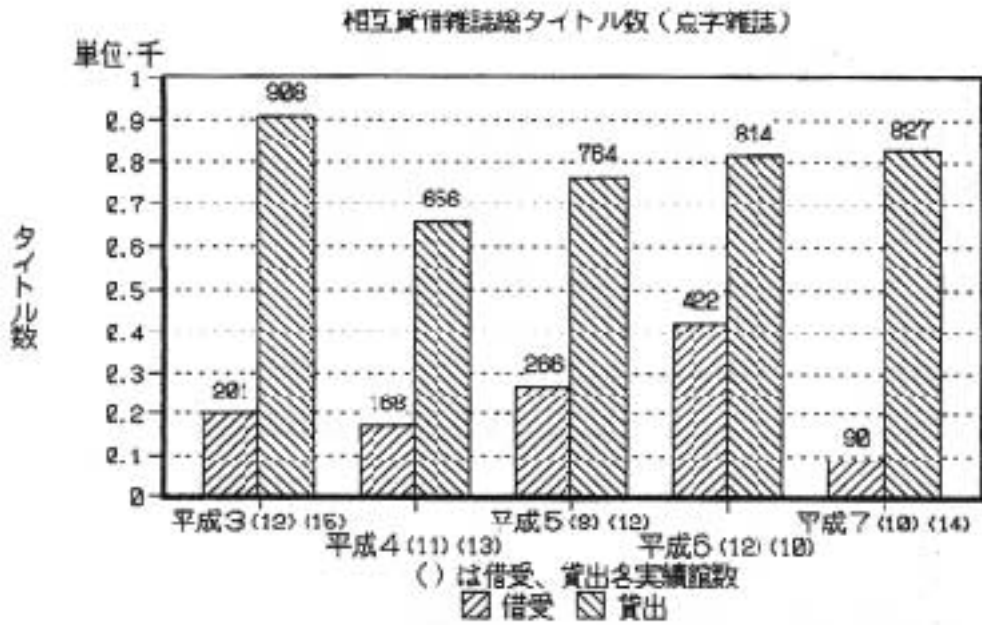
借り受け	点字図書	約 3,100タイトル	わずかに増加傾向
	点字雑誌	約 90タイトル	? (統計不備)
	録音図書	約 3.7万タイトル	大きく増加傾向
	録音雑誌	約 7.7万タイトル	横ばい傾向

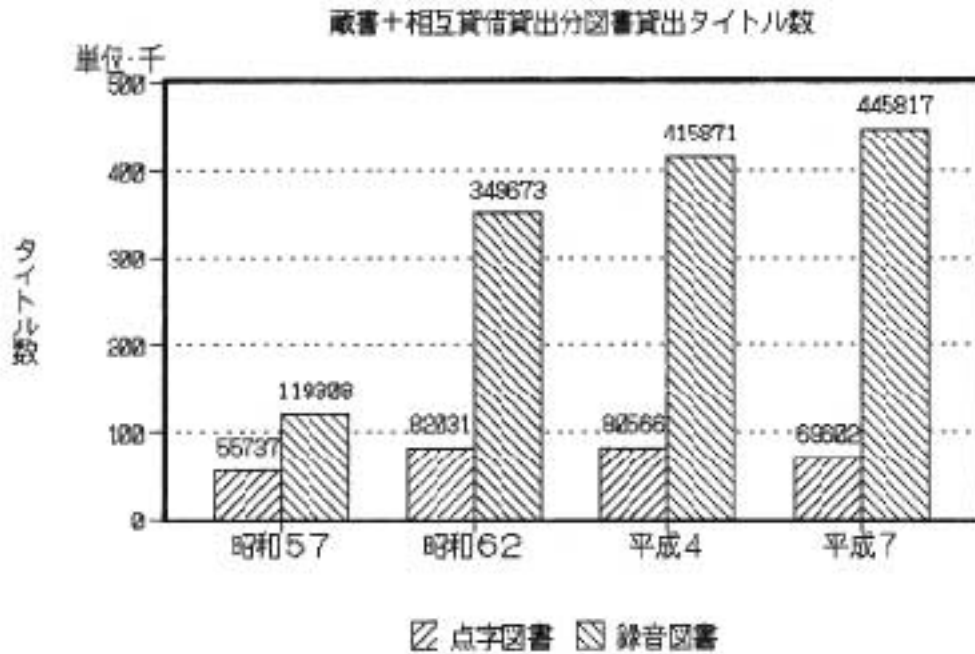
1館平均	点字図書	約 44タイトル	(実施館10館のみ)
	点字雑誌	約 9タイトル	
	録音図書	約 450タイトル	
	録音雑誌	約 1,200タイトル	

貸出	点字図書	約 4,600タイトル	増加傾向
	点字雑誌	約 800タイトル	横ばい傾向
	録音図書	約 4.4万タイトル	大きく増加傾向
	録音雑誌	約 4.0万タイトル	横ばい傾向

1館平均	点字図書	約 63タイトル
	点字雑誌	約 60タイトル
	録音図書	約 560タイトル
	録音雑誌	約 670タイトル



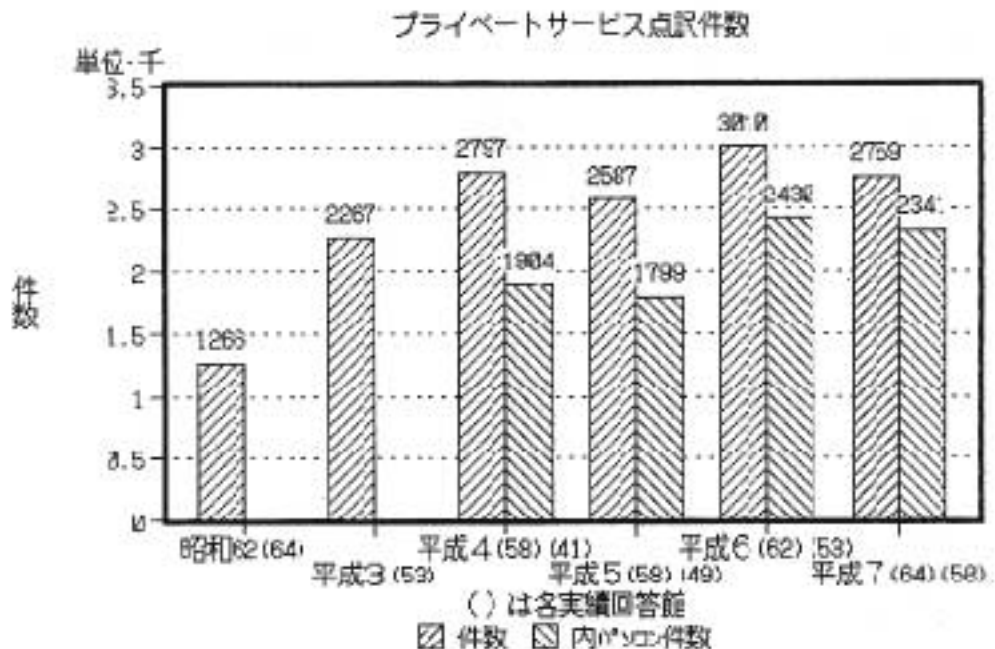




7. プライベートサービス (リクエストによる製作で蔵書にしない資料の提供)

点訳件数 約2,800件 50万ページ
 (うちパソコン点訳2,300件 82%) 横ばい傾向
 録音件数 約3,500件 2.7万時間 少し増加傾向

1館平均 点訳件数 約43件 9,300ページ
 録音件数 約54件 440時間



8. 図書館資料購入費

点字図書・雑誌	約 2,000 万円	年によりばらつきあり
録音図書・雑誌	約 390 万円	横ばい傾向
墨字原本	約 1,500 万円	少し増加傾向
参考資料	約 860 万円	少し増加傾向

1 館平均	点字図書・雑誌	約 30 万円
	録音図書・雑誌	約 13 万円
	墨字原本	約 20 万円
	参考資料	約 14 万円

,X•D•} • ŠÛ! —ŽÒ

- @_—óŽ@ @-ñ,S•Q,O,O-¼@í , ,©,É‘• %óÉü
- @_Žš•Z•³ Ž@-ñ,P•Q,O,O-¼@í , ,©,É‘• %óÉü
- @%1—óŽ@ @-ñ,S•Q,O,O-¼@í , ,©,É‘• %óÉü
- @^%1Z•³ Ž@-ñ,P•Q,O,O-¼@í , ,©,É‘• %óÉü

- @PŠÛ½! •@_—óŽ@ @-ñ,T,V-¼
- @ @ @ @ @ @ @_Žš•Z•³ Ž@-ñ,Q,O-¼
- @ @ @ @ @ @ @%1—óŽ@ @-ñ,U,O-¼
- @ @ @ @ @ @ @^%1Z•³ Ž@-ñ,Q,P-¼

,P,O•D•»•i

•@_žš} • @ñ,T,E,T,O,O f^f Qgf (•i ,ž ,z f p f \ f R f “ “ _ – ó, Q E, W, O, O f ^ f Q g f (•@T,P•“ •j
•@^%•} • @ñ,X,E,P,O,O f ^ f Q g f (

•@P Š Ů ½ ě •@_žš} • @ñ•@U,W f ^ f Q g f (

•@•@•@•@•@^%•} • @ñ,P,P,S f ^ f Q g f (

,P,P•D”NŠŮř“ü•”

•@@@_žšž‘ —•@-ñ,P•DU-œ^fCf gf<

•@@@^%žž‘ —•@-ñ,P•DU-œ^fCf gf<

•@@@PŠŮř½ĩ •@_žšž‘ —•@-ñ,P,X,O f^fCf gf<

•@@@@@^%žž‘ —•@-ñ,Q,O,O f^fCf gf<

,” ,í ,è ,É

•@ ^Ê•ã•A,P,X,W,Q•i •° ~a,T,V•j ”N,©,ç ,Ù,Ú,T”N,² ,Æì •,, ^Ú,Æ•A^ê•” %oRŽ,S”NSŦì •,, ^Ú,Æ
,QŽí—þ •” ’l ,đ OEĀ,« ,½•B,± ,ê ,ç ,ì •” ’l ,đ ŽQl ,É,μ ,È,^a ,ç ŠeŠÛ^a ŽAŽ{,μ ,Ä,« ,½%oRŽ,P,S
”NSŦì “_Žš•} • ŠŮŠ^“@,đ OEĀ,μ ,Ä,ç ,½,³/₄,« ,½,ç •B,Û,½•A‘Š OE,É,» ,ê ,¼,ê ,ì “_Žš•} • ŠÛì
‘S’ì ,ì ’† ,Ä,ì ^Ê’u ,Ä,- ,đ ŠmF,μ ,Ä,Ä•A•i OEâ •î •ñfT[frfXâ flfbfgf••[fNđ «,É•l ,ì ,Ä
,ç ,« ,½,ç •B

DAISY 国際評価総括会議 短報

河村 宏
(日本障害者リハビリテーション協会)

去る7月18 - 20日に戸山サンライズで開催されたDAISY国際評価総括会議の要点は下記の通りです。

1. DAISYが提案する新しい録音図書は広く支持を集めた。
2. プレクストークの取り扱いの解説には工夫が必要で、高齢者への説明でも2時間あれば足りるという意見と、2日かかっても難しかったという意見が出た。
3. DAISYの特長を生かした編集方法はまだ模索の段階で、コンソーシアムとしてガイドラインを設ける必要がある。
4. WBUおよびEBU共に、利用者に開発段階で評価を求めたことを非常に高く評価した。
5. 国際評価試験そのものがDAISYの評価を高め、国際標準化を強力に進める原動力となり、DAISYが次世代録音図書の事実上の国際標準としての地位を約束された。
6. リハ協がDAISYのインターネットへの展開を世界に先駆けて行うことが明らかにされた。普通の電話機でもアクセスできるこのDAISY対応インターネット・サーバーは来年4月に稼動開始予定で、それに合わせて視覚障害者対応WWWブラウザも無償で提供される予定である。
7. 国際評価会議の報告会議は広く公開され、その中で、視覚障害者が使えるDAISY録音システムの早急な開発と、プレクストークの早期市販およびその日常生活用具指定への強い要求が出された。また、肝心の日本での普及の道筋を早急に明らかにするようという要求が日本の発言者から相次いだ。
8. DAISYを国際的に普及するために更に評価試験を1年延長することが決定した。これにより、評価に参加できなかった多くの発展途上国にDAISYを広める道が開かれた。
9. 会議に先立って開かれたレセプションの席上で、足掛け4年にわたってDAISYと共にプレクストークの開発を続けたシナノケンシ・プレクスターの金子社長とそのスタッフの貢献に対して、DAISYコンソーシアムのヒルシェフェルド会長より公式の謝辞の表明と記念品の贈呈が行われた。

(情報サービス課)

- 点字・録音図書ならびに雑誌の製作と購入に関すること
- 図書・雑誌の受け入れ、閲覧・貸出に関すること
- プライベート・レファレンスサービスに関すること
- 新刊図書等の情報の提供に関すること
- 読書普及に関すること
- 情報機器操作の研修に関すること
- 館内LANの保守管理、ネットワーク利用に関すること
- 情報サービス事業の企画立案に関すること
- ボランティアの育成と活用に関すること

(事業課)

- 受託印刷、点字出版計画・実施に関すること
- 中途失明者相談と生活訓練に関すること
- 生きがい活動事業、地域交流事業の計画・実施に関すること
- 文化事業の計画・実施に関すること
- デイサービス事業に関すること
- ガイドヘルパー派遣事業に関すること
- センター全般の情報提供に関すること

新センターでは、従来から行ってきた事業の整理統合とともに、新しい事業にも取り組む。今年から、更に拡充または新規に取り組み始めた事業を紹介すると、次の通りである。

(拡充する事業)

- 1 県広報や金沢市広報のみならず、議会だよりなど受託印刷事業の拡充を図る。
- 2 障害者に必要な生活情報の拡充のため、『石川県福祉ガイドブック』などを積極的に点字出版する。
- 3 中途失明者のための「点字教室」「墨字教室」「パソコン教室」の開講回数を増やす。(毎週2回定例に)
- 4 盲老人の生きがい活動を積極的に協力支援する。(例えば、川柳・ダンス・カラオケ・謡曲など)

(新規事業)

- 1 巡回生活訓練教室を開設する。
県内5市町村(5会場)で開設する。
内容は歩行訓練、パソコンの基礎、点訳(点字)の基礎。
各会場で合計20回行う。

